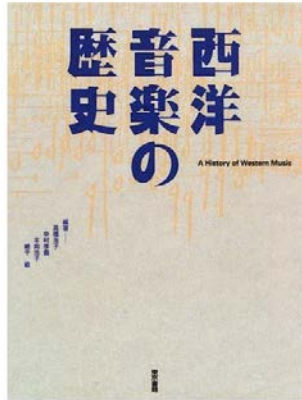


音楽通史の本

～ 所蔵資料の中からご紹介します ～



高橋浩子、中村孝義、本岡浩子、網干毅 編著

西洋音楽の歴史

東京書籍 1996年 (WR02-602)

目次——西洋音楽の歴史	
はじめに	1
序章——ヨーロッパ文化のなかの音楽	5
I 中世の音楽	11
1 グレゴリオ聖歌の成立とその発展——修道院・祈り・音楽	16
2 世俗音楽の興隆——騎士歌人たちの愛の歌	22
間奏曲——音楽と宗敎生活——教会暦のもとで	28
3 ポリフォニー音楽の始まり——大聖堂の音楽	29
4 世俗曲のポリフォニー化——記譜法の改革	35
II ルネサンスの音楽	41
5 ルネサンス音楽の開花——アルプスの北に花開いた音楽	46
6 ルネサンス音楽の最盛期——フランス・フランドル楽派の音楽	53
7 イタリア音楽の興隆——新しい感情表現を求めて	59
間奏曲——祝祭と音楽——宮廷と都市の祭りと音楽	65
8 宗教改革と反宗教改革——ドイツ、イタリア、イギリスの音楽事情	66
9 ルネサンスの音楽——図像と楽譜に見る楽器とその音楽	72

III

バロックの音楽 79

- 10 バロックへの兆し——様式の転換 84
- 11 劇音楽の台頭——オペラの誕生とその発展 90
- 12 様々な声楽ジャンル——オラトリオ、アンセム、カンタータ 96
- 間奏曲 楽器の変革と音楽の変容——演奏様式研究へ向けて 103
- 13 新しい器楽ジャンルの発展——まずは声楽をモデルとして 104
- 14 後期バロックの器楽——トリオ・ソナタと協奏曲 110

IV

古典派の音楽 117

- 15 一八世紀のオペラ——セリア、ブッフア、コミック、ジングシュピール 122
- 16 初期古典派の音楽——バロックと古典派の狭間で 129
- 間奏曲 「コンサート」の誕生——公開演奏会と古典派の時代 135
- 17 器楽の自立——交響曲とソナタ形式の確立 136
- 18 市民社会の成立と音楽——音楽家の社会的地位の変化 143

V

一九世紀市民社会の音楽 149

- 19 芸術歌曲の発展——リートとメロディ 154
- 20 ヴィルトゥオーゾとピアノ音楽——ピアノの発達と作曲家たち 161

VI

二〇世紀の音楽 207

- 21 音楽の巨大化——ポスト・ベートーヴェンの交響曲 167
- 22 室内楽の世界——音楽の自己告白 174
- 間奏曲 音楽文化とエンター——一九世紀における女性と音楽 180
- 23 ロマン派オペラの展開——豪華なるオペラの世紀 181
- 24 東欧・北欧の音楽家たち——民族主義への自覚 188
- 25 世紀末の音楽——爛熟する都市文化と音楽 194
- 26 音楽社会の変貌——近代的音楽制度の成立 201
- 27 新しい可能性を求めて——無調、十二音、偶然性 212
- 28 リズムの復権——民族音楽の生命力を求めて 220
- 29 懐古と革新——政治と技術の時代の音楽 225
- 間奏曲 音楽とテクノロジー——「不純」な音楽史に向けて 231
- 30 マスメディア社会と音楽——「クラシック」音楽の危機？ 232
- 31 日本人と西洋音楽——異文化としての西洋音楽 238
- あとがき——今後の音楽史研究の課題 245
- 参考文献——さらなる探究のために 250
- 索引 256



久保田慶一 [ほか] 著

はじめての音楽史：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで

増補改訂版 音楽之友社 2009年 (WR05-408)

目 次

はじめに——改訂によせて——久保田慶一 1

第1部 西洋音楽史

序章	人間と音楽——	片桐功	7
第1章	古代ギリシア——	片桐功	15
第2章	中世——	吉川文	23
第3章	ルネサンス(1)——	吉川文	35
第4章	ルネサンス(2)——	吉川文	43
第5章	バロックの声乐——	岸啓子	53
第6章	バロックの器楽——	岸啓子	61
第7章	前古典派——	久保田慶一	69
第8章	古典派——	久保田慶一	77
第9章	ロマン主義前期——	長野俊樹	87
第10章	ロマン主義の諸相——	長野俊樹	97
第11章	20世紀(1)——	白石美雪	109
第12章	20世紀(2)——	白石美雪	117

第2部 日本音楽史

第1章	日本音楽史の始まり	高橋美都	135
	(西暦300年～1000年まで)		
第2章	能と狂言	三浦裕子	145
	(西暦1000年～1500年まで)		
第3章	近世——乱世に花開いた三味線文化——	茂手木潔子	155
	(西暦1500年～1850年まで)		
第4章	近代——伝統音楽と西洋音楽の並存のなかで——	塚原康子	171
	(西暦1850年～1945年まで)		

第3部 日本の現代の音楽

第1章	日本の現代音楽	榎崎洋子	183
	(1900年以降)		
第2章	現代邦楽	茂手木潔子	195
	(1945年以降)		
おわりに	——音楽史を学ぶとは——	久保田慶一	199
あとがき		久保田慶一	203
参考文献・視聴覚資料			204
事項索引			215
人名索引			221



D.J.グラウト, C.V.パリスカ著; 戸口幸策ほか訳.

グラウト/パリスカ新西洋音楽史

音楽之友社 1998-2001年

原著改訂第5版 (New York ; London :
W.W. Norton, 1996) の全訳
(上:WS01-521 中:WS01-617 下:WS01-809)

[上]

訳者まえがき 1

第5版への序文 11

1 古代ギリシャ・ローマの音楽生活と音楽観 17
・ギリシャとローマの遺産 17・古代ギリシャの生活と思想の中の音楽 18
・ギリシャの音楽組織 25・ギリシャ音楽理論の詳細 26・古代ローマの音楽 36・初期のキリスト教会 38・ビザンティウム音楽の詳細 42・文献 53

2 中世の聖歌と世俗歌 57
・ローマ聖歌とローマ式典礼 57・聖歌の種類、形式、型 68・その後の聖歌の展開 77・中世の音楽理論と音楽実践 82・非典礼的ならびに世俗的な単声音楽 91・中世の器楽と楽器 99・文献 102

3 多声音楽の始まりと13世紀の音楽 105
・初期多声音楽の歴史的背景 105・初期のオルガヌム 106・華麗オルガヌム 109・ノートル・ダム・オルガヌム 112・多声のコンドクトゥス 122・モテット 123・13世紀の記譜法の詳細 130・要約 132・文献 134

4 14世紀のフランスとイタリアの音楽 138
・一般的背景 138・フランスのアルス・ノーヴァ 141・イタリアのトレチエント音楽 150・14世紀後期のフランス音楽 156・ムジカ・フィクタ 161・14世紀の記譜法の詳細 163・楽器 166・要約 168・文献 169

5 15世紀のイギリスとブルゴーニュ 172

・イギリスの音楽 172・ブルゴーニュの音楽 180・文献 194

6 ルネサンス時代: ネーデルラントの音楽 197

・一般的特徴 197・北方系の作曲家たちとその音楽 210・ジョスカン・デ・プレ 222・オーブレヒトとジョスカンの同時代人 230・要約 233・文献 233

7 16世紀における新しい潮流 239

・1520-1550年の世代のフランス・フランドル楽派 239・民族的な諸様式の興隆 244・イタリアのマドリガーレ 246・イタリア以外の世俗的な声楽曲 263・16世紀の器楽 275・要約 292・文献 294

8 後期ルネサンスと宗教改革の教会音楽 300

・ドイツにおける宗教改革の音楽 300・ドイツ以外における改革派の教会音楽 305・反宗教改革 312・要約 329・文献 330

和文索引 333

欧文索引 353

[中]

訳者まえがき 1

第5版への序文 11

9

初期バロック時代の音楽 17

・一般的性格 17・初期のオペラ 26・室内音楽 47・ヴェネツィア楽派
54・カトリック教会音楽の種目 57・ルター派の教会音楽 60・器楽 65・
文献 77

10

17世紀後期におけるオペラと声楽 83

・オペラ 83・室内声楽曲 100・教会音楽 104・文献 121

11

後期バロック時代の器楽 126

・オルガン音楽 126・チェンバロとクラヴィコードの音楽 134・合奏音楽
141・文献 159

12

18世紀前期の音楽 163

・アントーニオ・ヴィヴァルディ 166・ジャン＝フィリップ・ラモ 172・
ヨハン・ゼバスティアン・バッハ 179・バッハの器楽 181・バッハの声楽
曲 193・ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル 204・文献 220

13

初期古典時代のソナータ、交響曲、オペラ 224

・啓蒙主義 224・音楽修辭学の詳細 236・オペラ 238・喜歌劇 249・オ
ペラ改革の始まり 252・歌曲と教会音楽 256・器楽曲：ソナータ、交響
曲、協奏曲 259・要約 271・文献 271

18世紀後期：ハイドンとモーツァルト 276

・フランツ・ヨーゼフ・ハイドン 276・ハイドンの器楽 279・ハイドンの
声楽作品 299・ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 303・モ
ーツァルトのウィーン時代 310・結び 326・文献 326

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 331

・作曲家とその音楽 331・第1期 334・第2期 340・第3期 354・文献
362

和文索引 365

欧文索引 384

14

15

【下】

訳者まえがき 1

第5版への序文 11

16 ロマン主義と19世紀の管弦楽曲 17
・ロマン主義 17・管弦楽曲 19・文献 45

17 19世紀の独奏曲、室内楽曲、声楽曲 52
・ピアノ 52・ピアノ音楽 54・室内楽 70・リート 78 合唱音楽 85・
文献 91

18 19世紀のオペラと音楽劇 92
・フランス 92・イタリア 99・ジュゼッペ・ヴェルディ 103・ドイツ 110・
リヒャルト・ヴァーグナーと楽劇 113・文献 122

19 1870年代から第1次世界大戦までのヨーロッパの音楽 126
・ドイツの伝統 126・民族主義 142・フランスにおける新しい潮流 156・
イタリア・オペラ 168・文献 170

20 20世紀ヨーロッパの主流 175
・序 175・民俗的文脈 179・ソヴィエト圏 185・イギリス 191・ドイツ
196・ラテン・アメリカ 201・フランスにおける新古典主義 203・ストラヴ
ィーンスキイ 207・文献 218

20世紀ヨーロッパにおける無調性、音列主義 および最近の発展 222 21

・シェーンベルクとその後継者 222・ヴェーベルン以後 235・最近の展開
240・文献 250

アメリカの20世紀 253 22

・歴史的背景 255・アメリカ固有の音楽 260・アメリカ芸術音楽の確立
269・1945年以降 281・結び 305・文献 306

和文索引 309

和文総索引 331

欧文総索引 396

デイヴッド・G・ヒューズ 著；ホアキン・M・ベニテズ、近藤譲訳

ヨーロッパ音楽の歴史：西洋文化における 芸術音楽の伝統

朝日出版社 1984年（U03-726）

日本語版への序	iii
まえがき	ix
序	xi
第 I 章	グレゴリオ聖歌 1
第 II 章	ポスト・グレゴリオ聖歌 41
第 III 章	初期ポリフォニーと中世の世俗歌 61
第 IV 章	14世紀 111
第 V 章	15世紀 147
第 VI 章	16世紀の声楽的ポリフォニー 179
第 VII 章	16世紀の器楽と16世紀後期の進歩的諸傾向 251
第 VIII 章	初期バロック 実験の時代 289

第 IX 章	17世紀後期 共通の作曲法の発展 327
第 X 章	後期バロック 389
第 XI 章	古典派の時代 441
第 XII 章	19世紀初期 ベートーヴェンとロマン主義の始まり 503
第 XIII 章	ロマン派の時代 557
第 XIV 章	19世紀後期 607
第 XV 章	20世紀 659
結	709
付 1	楽譜、音楽書、レコードの扱い方 717
付 2	用語解 721
付 3	ミサ曲歌詞対訳 724
訳者あとがき	728
索引	731

OPACの探し方

◆キーワード欄に「音楽史」と入力してください。

◆分類から探す場合は、

1) >>メニューで >>分類検索 を選ぶ

2)

楽譜・器楽(inst) ▼	図書(ndc0) ▼
楽譜・器楽(inst)	
楽譜・声楽(voice)	
図書(ndc0)	

→ 図書(ndc0)を選択

3) ◎ ndc0 762* 762 音楽史. 各国の音楽. 音楽家 の検索ボタンを押して、階層 1/4 ▷ をクリック

4) 2つめの ◎ndc0 762 762音楽史. 各国の音楽 の検索ボタンを押して、画面下方の **検索** をクリック

5) 検索条件の変更(絞込み) をクリックし、
資料形態: ▼ で 和書 を選び、 **再検索**

◆請求記号から探す場合は、詳細検索画面の請求記号欄に大文字で入力してください。

U01-306

* 予約ボタンで資料の申し込み、予約ができます。

* メール、FAXでのお申し込みは、請求記号でお願いします。